

岩手県職労

月2回刊=1543号
2019年10月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸10番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジョー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

地公共闘・人事課長交渉

県人勸は最大限尊重

給与改定通勤手当 12月議会提案へ含みも継続課題は次回交渉に

高齢層職員対策 総務部長にも伝える・共通認識持ち対応

10月21日、岩手県地方公務員共闘会議は、2019県人勸の取り扱いなど確定闘争要求書を佐藤人事課長に提出し、基本姿勢を質すため交渉を行った。交渉では県人勸を最大限尊重とし、12月議会提案に含みを持たせた回答を示すも継続課題は現状認識にとどまった。地公共闘は11月8日最終局面の総務部長交渉に向け、取り組みを強化していく。

【給与改定】

県人勸尊重との基本姿勢を確認し、国給与法も関連決定され臨時国会に提出済みであり、国の動向を注視し12月議会提案に含みを持た

【給与改定】

せた回答を引き出した。交渉団から確実な条例提案・年内差額支給を求めた。

【高齢層職員の勤務意欲策】

職制や職種に応じた取り組みについて、現給保障終

【諸手当改善】

県人勸で働かされた交通用具利用の距離区分の拡大(90kmまで・上限額49,300円)に関し、県人勸尊重の姿勢を示しつつ、ガソリン価格の動向に関して昨年1年間での平均価格の動向に変化がなく、ガソリン価格に対応した手当の改定は行わないとし、距離

【諸手当改善】

とて、総務部長にも課題を共有しながら、共通認識を持ち、取り組みを進めるとしたことから、次回交渉で具体回答を求めた。



▲人勸の完全実施と年内差額支給などを求める地公交渉団



▲回答する人事課総括課長(中央)



▲要求書を手渡す佐藤地公共闘議長(右)



▲人員や超勤改善などを迫る交渉団



▲回答する佐藤人事課総括課長(中央)

欠員は9月1日時点で69人(一般行政30人、総合土木18人)であるとし、採用数確保に努めるとしたが、来年度の定数規模は現時点で提示は困難との姿勢にとどまった。採用規模を示すこ

今後の闘争に向けて
当局の人員確保、超勤課題をはじめとした職場への改善姿勢は不十分。個々の職場の改善に向けて実態をもとに交渉を強化していく。

いわて盛岡シティマラソンが盛岡市ではじめて開かれ、国内外からランナー230人が盛岡市内を力走。当日の温度は15度のマラソン日和と市民・関係機関の連携と事前準備が当日の運営にいい影響を与え、多いに盛り上がった。今後の活動も期待したい▼来年の東京オリンピックのマラソン・競歩をI・O・Cは猛暑の対策として会場を札幌に移す案を発表している。移転理由は、カタルドールで行われた世界陸上が酷暑のためマラソンと競歩のスタート時間を深夜にしたにもかかわらず、女子マラソンではリタイアする選手が半数近くにまで及んだためだ。年々暑さの増す真夏の東京でマラソンと競歩を強行すれば、事故の発生も懸念される▼アスリートファーストを唱え、涼しい札幌に変更したいというI・O・C側の主張は、理解できる。個人的には時期をずらして涼しい期間に開催出来たら、アスリートやスタッフも助かるのではないかと考えるが、そのような選択は放映権もあり難しいようだ▼オリンピック成功には、スポーツ選手や関係者が連携できる環境が不可欠である。

県職労は、10月21日、確定自主要求書及び定期人事異動に関する要求書を佐藤人事課長に提出し、交渉をスタートさせた。

1 応援職員の労働条件確保、2 超勤予算確保・配分、3 異動希望先の変更の取り

扱いを求めた。佐藤人事課長は1 住居や勤務条件は各部署に伝え早急に検討、2 6月期勤勉手当の上位区分者は55歳以上178人とし、継続して取り組むとの姿勢を示した。依然実感がわかないこと、昇格改善を含めた対策が必要と訴えた。

超勤上限や客観的勤務時間把握の制度趣旨を周知し、一層の対策を進めること、勤務時間記録と超勤実績に乖離がある場合は実績時間を修正するとしており、適正な運用をはかるとの姿勢にとどまったことから、趣旨と実態が合致しておらず、勤務時間把握から得られた数値をもとに要員確保などの一層の対策が必要と訴え、制度の運用に関して

超勤上限や客観的勤務時間把握の制度趣旨を周知し、一層の対策を進めること、勤務時間記録と超勤実績に乖離がある場合は実績時間を修正するとしており、適正な運用をはかるとの姿勢にとどまったことから、趣旨と実態が合致しておらず、勤務時間把握から得られた数値をもとに要員確保などの一層の対策が必要と訴え、制度の運用に関して

実態踏まえた人員・超勤改善迫る 独自要求書を提出 秋の闘いスタート

県職労人事課総括課長交渉

人事委員会への意見反映を行うよう求めた。

【赴任旅費】
旅費制度全体の在り方として費用弁償の側面をどれだけ制度に反映させるか慎重に検討との姿勢にとどま

【今後の闘争に向けて】
県人勸実施の方向や、12月議会提案に含みを持たせた回答を引き出すも、継続課題は具体的改善姿勢が見られず不十分。10月31日人事課長交渉には大型ハガキ署名をもとに前進回答を強く求めるとともに、11月8日総務部長交渉に向けて闘争を強化していく。

超勤改善課題
超勤上限や客観的勤務時間把握の制度趣旨を周知し、一層の対策を進めること、勤務時間記録と超勤実績に乖離がある場合は実績時間を修正するとしており、適正な運用をはかるとの姿勢にとどまったことから、趣旨と実態が合致しておらず、勤務時間把握から得られた数値をもとに要員確保などの一層の対策が必要と訴え、制度の運用に関して

超勤改善課題
超勤上限や客観的勤務時間把握の制度趣旨を周知し、一層の対策を進めること、勤務時間記録と超勤実績に乖離がある場合は実績時間を修正するとしており、適正な運用をはかるとの姿勢にとどまったことから、趣旨と実態が合致しておらず、勤務時間把握から得られた数値をもとに要員確保などの一層の対策が必要と訴え、制度の運用に関して

先のことなどわからない...
「今のことで手一杯、退職後のことなど考えられない」だからこそ、今から始めておきませんか？ 将来のあなた自身へのプレゼント。
在職中は月々1口3000円から掛金を積み立てて退職後の「年金」「医療」「遺族」給付を退職する時に選択
◆お申し込み・お申し込みは組合へ
じちろうの長期共済
岩手県自治労共済本部
岩手県自治労共済本部 盛岡支部



▲確定闘争要求書と人事異動に係る要求書を手渡す大崎委員長(右)

いわて盛岡シティマラソンが盛岡市ではじめて開かれ、国内外からランナー230人が盛岡市内を力走。当日の温度は15度のマラソン日和と市民・関係機関の連携と事前準備が当日の運営にいい影響を与え、多いに盛り上がった。今後の活動も期待したい▼来年の東京オリンピックのマラソン・競歩をI・O・Cは猛暑の対策として会場を札幌に移す案を発表している。移転理由は、カタルドールで行われた世界陸上が酷暑のためマラソンと競歩のスタート時間を深夜にしたにもかかわらず、女子マラソンではリタイアする選手が半数近くにまで及んだためだ。年々暑さの増す真夏の東京でマラソンと競歩を強行すれば、事故の発生も懸念される▼アスリートファーストを唱え、涼しい札幌に変更したいというI・O・C側の主張は、理解できる。個人的には時期をずらして涼しい期間に開催出来たら、アスリートやスタッフも助かるのではないかと考えるが、そのような選択は放映権もあり難しいようだ▼オリンピック成功には、スポーツ選手や関係者が連携できる環境が不可欠である。

県職労第118回中央委員会

確定闘争・当面する方針など決める

職場改善と組織強化に全力を挙げよう

10月19日、県職労は第118回中央委員会を開催し、2019年度確定闘争方針、新採用加入をはじめとした組織強化拡大を柱とした当面の闘争方針を確立した。

開会に当たり、大崎中央執行委員長は「台風19号災害が甚大であり、組合員が懸命に対応している。業務量増も見込まれるため、組織強化拡大を柱とした当面の闘争方針を確立した。組合員へのフォローや勤務上の諸課題の改善に全力を挙げていく。県人勧では住居手当改善の見送り、通勤手当の改善勧告が実現したが、賃金改善はわずかに。確定闘争で職場・生活実態を踏まえた改善に向け全力をあげる。併せて



▲当面する方針を決めた県職労第118回中央委員会

その後、本部から確定闘争方針などの当面の闘争方針を提起。5人の中央委員から発言を受け。本部として対応すると答弁した。

【補強発言の骨子】
 ●「盛岡支部・飯坂委員」
 ●会計年度任用職員制度を巡り現場では制度が決まらず戸惑いも。早期提示と職場実態踏まえた配置を。

●高速道路等の通勤手当改善の取り組み強化を。
 ●職業訓練指導員の業務が増加しており、人員確保と指導員手当改善を。
 ●「胆支支部・長沼委員」
 ●10月30日県南4支部・県南局長交渉を行う。継続した取り組みへの支援を
 ●台風19号災害対応について迅速対応を（応援体制の

住居・勤務条件改善、超勤予算確保・配分)
 ●「県庁支部・菊池勉委員」
 ●運転技士の補充に全力を
 ●「二戸支部・中村委員」
 ●臨時・非常勤職員の組織化の早急な具体案の提示を
 ●その後、運動方針が確立され、大崎委員長は「団結力」を運動前進に向けて決意を固めた。



▲花巻支部定期大会

10月16日、水産技術センター会議室で今年度の評議会交渉に向け、水産技術センター組合員14人と意見交換を開催した。
 意見交換では、仮設住宅の存続が来年3月のため、入居の職員に対し借り上げ公舎など住居の確保が必要であること。昭和42年建設の大平公舎は、ドアが開かないことや給湯器も古いなど老朽化が進んでいること、また、来年度移行する会計

年度任用職員で、試験研究部門の臨時職員の配置に際し、パートタイム勤務では研究時間も限られ業務への影響も大きいことから、フルタイム勤務や見合った人数の確保が必要との意見が出された。
 最後に、これらの職場実態から改善内容を要請書にまとめ、農林水産部交渉を進めることを全体で確認した。

入居の職員に対し借り上げ公舎など住居の確保が必要であること。昭和42年建設の大平公舎は、ドアが開かないことや給湯器も古いなど老朽化が進んでいること、また、来年度移行する会計年度任用職員で、試験研究部門の臨時職員の配置に際し、パートタイム勤務では研究時間も限られ業務への影響も大きいことから、フルタイム勤務や見合った人数の確保が必要との意見が出された。
 最後に、これらの職場実態から改善内容を要請書にまとめ、農林水産部交渉を進めることを全体で確認した。

県庁支部が体制を確立

佐々木支部長を再選

10月10日に投票が行われた県職労県庁支部役員選挙は、17日に開票が行われた結果、立候補した全員が信任され今年度の支部体制を確立した。
 役員・氏名は次のとおり。



佐々木支部長

- 県庁支部
 支部長 佐々木琢磨(産業経済交流課)
 支部副部長 澁谷昌二郎(調査統計課)
 小田島 淳(県土整備企画室)
 書記長 藤村 秀樹(廃棄物対策センター)
 書記次長 澤口 陽平(自然保護課)
 執行委員 佐藤 佳之(河川課)
 小田 善昭(林業振興課)
 平嶋 正則(漁業調整委員会)
 佐々木 治(労務室)
 遠藤 哲美(管財課)
 畠山 貴弘(税務課)
 松本 潤(商工企画室)
 細田 北斗(森林整備課)
 会計監事 古舘 俊也(総務室)
 葛巻美知子(農業普及技術課)
 伊五澤 敬(復興局)

野中やすし 議会報告

一般質問で初登壇

10月18日、盛岡市議会において、野中やすし市議(県職労組織内)が、一般質問で初登壇した。

野中市議は、「人口減少対策」、「会計年度任用職員制度」について、市当局の考えを質した。

一点目の「人口減少対策」については、若者・女性の人口流出が、市の少子高齢化に拍車をかけている問題を取り上げた。

神奈川県横須賀市等の事例を挙げ、若者・女性の就労支援、定住対策にむけ、経営者団体・行政機関に加えて、労働団体も加えた「総合力」の推進体制の構築が必要だと訴えた。

次に、「会計年度任用職員制度」について、来春の制度施行を目前に控え、市当局の対応状況を質した。

野中市議は、「市でも非正規職員が増え続けている

中、新制度に対する不安は大きい。雇用確保と賃金水準・休暇制度等、処遇改善を求めたい」と発言した。

これに対し、市当局は「法改正の趣旨をふまえ県内他自治体の動向を見ながら適切に対応する」との回答に終始した。

そこで、野中市議から、
 「今や非正規職員なくして市の行政は進



▲初の議会場で質問に立つ野中盛岡市議会議員

現業・公企職場の直営堅持を

全単組が結集し「要求」交渉で前進しよう

10月22日、自治労県本部主催の現業公企統一闘争・確定闘争勝利総決起集会の開催に現業・非現業併せて

県本部伊藤執行委員長から「国・県の勧告が出そろい秋闘へ入った。一時金は据え置きとなり県と国に差が生まれるものの、月例給の引き上げ、住居手当改善を阻止させ、通勤手当の改善がなされた。今後、県内の各単組における確実な賃金労働条件の改善のため、各単組が一体となり運動の強化を図ろう」とあいさつ。

基調講演では、「2019年勧と確定闘争勝利にむけて」として、自治労本部総合労働局労働条件局長・青木雄次さん(群馬県本部出身)が講演。「要求した



▲現業・公企統一闘争、2019確定闘争勝利に向けて意思統一した総決起集会

から」といつて簡単に改善につながるものではない。継続して要求することが大切。人勧を受け、各単組が、自分の職場の改善に向けた取り組みと、確定闘争では全単組が結集し具体的な要求と交渉で前進を」と提起した。

その後、県本部及川書記長から自治労県本部確定闘争方針について提起し満場一致で採択された。最後に伊藤委員長の団結カンパロで勝利に向け意思統一をはかった。

水産技術センター意見交換
 老朽化激しい「公舎」に代わる住居の確保を
 改善項目まとめ交渉へ